

平成 30 年度 地域ケアプラザ事業報告書

■ 施設名

横浜市港南台地域ケアプラザ

■ 事業報告

1 全事業共通

地域の現状と課題について

- ・当ケアプラザの担当エリアの人口は平成 29 年 3 月 31 日現在 28,944 人(男性 13,897 人、女性 15,047 人)。人口推移は、平成 11 年頃よりゆるやかに減少していますが、世帯総数は増加傾向にある。65 歳以上は 8,439 人と前年度より 231 人増加になっており、高齢化率は前年度 28.4%から 29.2% (0.8%増加) になっています。
- ・高齢者の単独世帯は 3804 世帯で平成 12 年から平成 27 年にかけて、2.8 倍増加しており、夫婦のみの世帯は 3,148 世帯で平成 12 年から平成 27 年にかけて 2.6 倍増加している。(平成 27 年 10 月国勢調査より)
- ・認知症の方も増えていますが、元気な高齢者も多く、老後の生活についての関心や意識も高く、心身の健康維持や老化予防として、各種運動活動や仲間づくりへの参加も多くみられます。
- ・昭和 50 年頃の開発当初から生活されている方の大半が 80 歳前後になるなか、
 - ①一人暮らしの高齢者の緊急時の対応
 - ②老老介護の介護力不足
 - ③認知症への地域(家族含む)の理解不足
 - ④エレベーターのない集合住宅や、坂が多いことから高齢者の外出困難
 - ⑤巨大な UR 賃貸住宅での転出入も多く、地域の住民同士の交流が少ない
 - ⑥地域福祉に係るボランティアの高齢化の課題が見られます。
- ・また、港南台には様々な障がい児者支援関連施設や特別支援学校があり、地域全体で連携した、社会に参加しやすい環境づくり、仕組みづくりが求められています。
- ・高齢者、障がい者、子育てなど幅広い層への支援が必要であるとともに、住民同士のつながりやお互いの顔が見え気軽に声掛けができる関係作り、ボランティアの掘り起し、育成、ネットワーク化も必要となっています。
- ・外国にルーツを持つ子育て世帯が増加傾向にあり、義務教育への進学時などに通訳支援を必要とする状況があるため、地域で身近に相談や支援機関につなげられるような仕組み作りが求められています。

地域包括ケアシステムの推進に向けた総合事業及び生活支援体制整備事業の構築を目指し、重点目標は下記です。

- 地域と連携したコミュニティスペース(自治会館、集会所、住宅など)を活用したサロンづくりの取組を推進
- 認知症予防に関する普及啓発に努め、3A(スリーエー)講座が地域ごとに普及できるような取組
- 認知症サポーター養成講座の普及啓発と認知症家族への支援
- 地域の社会資源の把握と情報整理に努め、地域に不足するサービスの創出に向けた取組を推進
- ボランティアの発掘・育成・交流とネットワーク化の仕組みづくり
- 地域防災拠点との連携し、特別避難場所の開設訓練の実施
- 障がいのある方が地域で安心して元気に暮らせるよう、地域との交流を深める取組を推進

- 地域の社会資源の整理と地域で活用できる地域活動マップを作成
- 若年層（40～60歳代）の地域活動の担い手創出につながる事業の仕組みづくり
- 子どもの貧困対策に向けて、こども食堂や学習支援事業が継続できるような環境づくり

(1) 相談（高齢者・こども・障害者分野等の情報提供）

- ・地域の社会資源の創出及び地域課題の解決に向けて、連合自治会や社会福祉協議会、民生委員児童委員の定例会に参加し、地域情報の把握とともに地域住民との関係性の構築に努めました。
- ・連合自治会、社会福祉協議会、活動団体と協働し、商業施設を会場にケアプラフェスタを開催しました。福祉交流を行う港南台第二小学校4年1組による手話ダンスや協力医による認知症に関する講演会など行い、貸館団体の発表会やシルバークラブ、南部病院歯科衛生士、地域包括支援センターによる相談コーナーを設置しました。地域の身近な相談窓口としての機能を広く周知しました。
- ・港南区役所と区内地域ケアプラザが連携して取り組む「見守り協力事業者」を推進しました。商店会の協力もあって50店舗以上に登録いただき、地域の商店や薬局の方々とも気軽にあいさつを交わせるような顔の見える関係づくりができました。協力店の薬局より「自宅が分からない高齢者が来店され、顧客であったため自宅まで送り届けた」の報告をいただくなど、ゆるやかな見守りの輪が広がる取組として進めることができました。
- ・港南台の総合福祉相談会では相談コーナーを出し、地域の様々な相談を受けました。また、同じビル内のJA港南台店で年金支給日の午前中に出張健康相談を行いました。健康相談の他、物忘れチェック、フットケア実演等を行い、早い段階から興味を持ち、介護予防や早めの相談につながることを目指しました。
- ・ウォーキングポイントのリーダーを設置したことで仕事帰りの会社員などが立ち寄られるようになり、地域情報やイベントチラシや冊子（暮らしのガイド等）を置くなど、日常生活に役立つ情報提供に努めました。
- ・地域のこどもが気軽に来所できるよう、夏休みには工作教室や自然講座、昆虫展を開催しました。昆虫展では多くの小学生が来所され、地域の恒例行事として定着するよう取組を進めました。
- ・ギャラリースペースを活用して、団体紹介やパネル展、写真展を行いました。パネル展では地域の自然保護や外遊びキャンペーンのほか災害支援活動の写真展など開催しました。作品展は折り紙や押し花絵画を展示したことで地域住民の来館者が増え、地域住民の交流の機会が増えました。

(2) 各事業の連携

- ・認知症高齢者の見守り生活支援が課題となり、地域ケア会議を開催しました。ケア会議からの課題解決に向けて、蓬萊荘と協力してケアプラザの車を使った移動支援プロジェクトを実施しました。
- ・住民支えあいマップ研修会をきっかけに継続的に展開してきた北自治会、うぐいすの杜、駅前プラザの3自治会が協働して取り組むサロン「マロニエ三和会」に参加し、プログラム終了後に毎回行う茶話会にて、高齢者の生活課題や困りごとなど聞き取りを行うとともにスムーズな運営が進められるよう努めました。
- ・平成28年から始めた「うたカフェ」は参加申込者が増え2部制に変更し、多くの方に参加頂けるようにしました。また、地域住民によるボランティアも増え運営に携わっていただきました。また、「ケアプラフェスタ」や協力医の「ほっとカフェ」にも協力いただくようになり、交流会でボランティア体験談などお話ししてもらいました。
- ・中学生を対象とした「認知症サポーター養成講座」を港南台第一中学校、日野南中学校で開催し、次世代ボランティア（担い手）の育成に取り組みました。
- ・5職種連携会議として地域交流Co、生活支援Co、包括3職種が集まり、担当ごとの事業の確認、情報交換、地域アセスメント、地域課題を把握し、支援方法などを検討しています。

(3) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

- ・年間計画に沿った研修の実施に取り組むとともに、職員が外部研修に参加することを積極的に奨励し、研修参加費用を一部助成するなど、研修に参加しやすい職場環境の向上を目指しました。
- ・各種研修の受講後は、研修報告書を作成・供覧し、職員全体のレベルアップを心がけています。
- ・職員との面接は、職員全員と管理者等との個別面談を実施しています。

(4) 地域福祉保健のネットワーク構築

- ・港南台第3期地域福祉保健計画の推進に向けて、「港南台支えあいネットワーク推進委員会」での話し合いが円滑かつ活発に進行するよう支援しました。連合自治会と地区社協と協力して今年度も交流イベントを2回開催しました。1月の「拡大定例会」では、地域防災拠点の連携強化に向けた意見交換会を開催しました。3月に障がいのある方との交流イベント「ふれあいデー」を港南台ひの特別支援学校ホールにて開催予定です。共に広報誌を通じて地域住民へ周知しました。
- ・港南台支えあいネットワーク推進委員メンバーについて、メンバーの高齢化に伴い、参加が難しくなっている委員へ議事録等での報告を続け、負担のないようご協力頂くことにしました。一方で、新たに「一中〇B会」が加わり、地域福祉の人材発掘のツールとして協働・連携に努めました。
- ・生活支援体制整備事業の協議体より、港南台地区の福祉ネットワークの活動拡充に向けた準備会に移行し、地域資源の共有と地域に不足するサービスの創出に向けた取組を進めました。

(5) 区行政との協働

- ・港南台支えあいネットワーク推進委員会では事務局として、港南区役所福祉保健課、港南区社会福祉協議会と協働して円滑かつ活発に進行するよう取り組みました。
- ・特別避難場所の開設訓練として、区役所災害本部と連携して、港南台第二小学校地域防災拠点との合同訓練を実施しました。
- ・港南区地域活動交流コーディネーター研究会にて「こども食堂の取り組みについて」事例発表しました。
- ・地域支援チーム会議を定期的に開催して、区制推進部の地区担当と連携して、地域支援を進めていきました。
- ・引き続き、区役所関係機関等との連携を深めて、協働して円滑かつ活発に進行するよう取り組みました。

2 地域活動交流事業

(1) 自主企画事業

- ・「3多クロス・ステーション」は、年度初めに代表の交代があり、活動継続のため、新代表の不安を取り除くようフォローを行いました。
また、区社協に寄せられた近隣の小学校からの相談を団体につなげました。これを機に小学校のスクールソーシャルワーカー、区社協ボランティアセンター担当者に団体の活動内容を理解してもらうことができました。
- ・港南台支えあいネットワークでは地域の課題を共有する場として、拡大定例会において「地域の防災をもっと考えてみませんか？」をテーマに地域防災拠点の連携強化に向けた意見交換会を開催しました。

- ・「防災を考える会」では、港南台消防出張所、南部病院、医療福祉センター港南、看護専門学校、福祉施設等と意見交換や情報交換を行い、防災に関する意識向上と連携を深める取組みができました。
- ・「青年学級ないとくるーず」では、参加者に自発的な行動（毎回の活動内容資料の作成、司会、書記、受付、片付けなど）が目立つようになってきました。また、新たに区役所障害者支援担当、基幹相談支援センター、すまいる港南とつながり、参加者の様子を共有しました。
- ・「サンタこども食堂」では、港南区生活支援課へ働きかけをした結果、生活困窮担当ワーカーが訪問時チラシを持参し、地域資源の一つとして紹介するという新たなネットワークができました。
また、常連参加の母親が精神的に不安定になり、ケアプラザへ相談に来ました。区役所こども家庭支援課と情報を共有し、見守りを行っています。
- ・夏休みには地域の子どもたちが、地域の自然や生物、歴史を知る機会となることを目的に「昆虫展」を開催。7日間で延べ369名の子どもが来場しました。
- ・地域への愛着を深められるよう、横浜の歴史を学ぶ「社会科セミナー」を開催しました。普段あまり来館されない男性シニア層が多く参加されました。
- ・協力医のプロデュースによる「ほっとセミナー」を毎月開催しました。参加者からは「分かりやすい」「病気だけでなく体操や栄養の話もあり、充実している」と好評でした。
- ・すずめ学級（1歳児子育て学級）とデイサービス高齢者との交流や障がい者の製品販売（毎月）を開催し、子どもから高齢者・障がい者まで人と人との交流の場を設けました。

(2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

- ・年度末にボランティア交流会を開催し、ケアプラザの利用団体同士の情報交換の場を提供し、福祉保健活動への理解を深めていただく予定です。
- ・バーズドゥファッションプラザを会場に「ケアプラフェスタ 2018」を開催し、活動団体の発表会や作品展示を行いました。準備段階で貸館団体（趣味のグループを含む）の方々と頻りに交流を持つことで活動の理解を深めることができました。また当日は活動団体が他の活動内容を知る機会となった他、地の利を生かし、ケアプラザを知らない地域の方に向けて広く活動を周知することができました。
- ・日頃から趣味のグループとも頻りにコミュニケーションを交わし、作品展示（折紙、俳句、絵手紙など）やボランティアのお誘いなどの働きかけを行いました。
- ・広報誌等で地域の活動団体を紹介するとともに、インフォーマルサービスの発掘に取り組み、貸館利用の向上に努めました。

(3) ボランティアの育成及びコーディネート

- ・「青年学級ないとくるーず」では、地域住民、学生ボランティアが継続して積極的に活動しています。2年目となった「おーじクラブ」の食事作りも軌道に乗り、参加者との関係も深まり、とても和やかな雰囲気での活動ができました。
- ・「サンタこども食堂」では、継続的に安定した運営ができるよう主催者・ボランティア・参加者の意見を積極的に聴き、後方支援を行いました。また、こども食堂開設準備中の地域の人たちの見学をたくさん受入れ、老舗としての役割も果たしました。
- ・昨年度グループ化した「わんだフルG U Y S !」は毎月定例会を開き、楽しそうに活動しています。今年度はセカンドライフ大学校受講生のサポーター役の中心としても活躍しました。また「こうなんなつっこ」などのボランティアにも快く参加してくれました。
- ・よこはまシニアボランティアポイント登録研修会を開催しました。具体的にボランティア活動の写真をスクリーンで紹介したことで「イメージしやすかった」との評価を得、実際にその後の活動につながりました。
- ・港南台地区社協とケアプラザ多職種連携で港南台第一中学校にて「認知症サポーター養成講座」を開催しました。
- ・高齢者とのふれあいの場として近隣の保育園との交流会を、職業体験の場として小中学校の福祉体験を受け入れました。

- ・年度初めに港南台第二小学校4年1組より今年度の総合学習（福祉教育）に協力してほしいと依頼がありました。担任教諭と一緒に何ができるか考えた結果、デイサービスとぺんぺん草の会に協力を得、月に1度定期訪問し高齢者と交流しています。子どもたちは「ケアプラザぽかぽかプロジェクト」と名付け、自分たちで立案し試行錯誤しながら活動しています。必要な情報提供などを行ないながら、子どもたちの成長を見守っています。
- ・横浜医療福祉センター港南、区社協、区役所等と協働で開催した「こうなんなつつこ」では、ボランティアの誘いかけを行った結果、近隣の高校生、看護学校生、地域住民による22人のボランティアが参加し、障がい者との交流を行いました。

(4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

- ・各種団体（民児協、社協、連合自治会等）の定例会や地域行事（駅前清掃、夏祭り、キャンドルナイト等）に積極的に参加し、地域の情報収集を行なうとともに必要な情報提供を行いました。また、民児協の定例会にて時間をもらい、「青年学級ないとくるーず」「3多クロス・ステーション」「サンタこども食堂」の事業内容を紹介し地域資源として活用してもらえよう周知を図りました。
- ・来館者と積極的にコミュニケーションをとる中で、新たなボランティア活動につながるなど、ニーズに合った情報提供を行いました。
- ・事業の告知や報告、地域の福祉保健活動団体の紹介、地域行事等を掲載する広報誌「プラザ便り」を毎月発行しています。「プラザ便り」はケアプラザのホームページ上にも毎号掲載し、幅広い世代の方に情報を提供しました。
- ・南部病院のホームページ、ツイッターに「南部病院健康教室」の情報を新たに掲載しました。
- ・地域防災拠点（港南台第二小学校エリア）の定例会に参加して、地域防災拠点との連携強化に努めました。今年度も特別避難場所の開設訓練を地域防災拠点と災害本部（区役所）と合同で行いました。
- ・利用者アンケートや日頃からのコミュニケーションを通して、地域や利用者ニーズの情報収集に努めました。

3 生活支援体制整備事業

(1) 事業実施体制

- ・地域ケア会議や協議体、包括カンファレンス等で共有した課題より地域支援に向けた試みを実施しました。5職種が連携した移動支援プロジェクト（蓬莱荘）やノルディックウォーク（ハックドラッグ）、かもめプロジェクト（かもめカフェ）、防災マップ（二小エリア）作成など住民や企業、商店等と連携した取組を進めることができました。
- ・横浜市介護予防生活支援サービス総合事業（通所型支援サービスB）として、港南台タウンカフェが新たに介護予防プログラムを導入した大人のための交流サロン「こもればカフェ」を開催しました。申請に向けた事前相談や運営に関する情報共有など連携するとともに、CM連絡会や地域のサロン、連合自治会、民児協、シルバークラブ等で周知を図り、要支援者の交流拠点となるよう努めました。
- ・かもめ団地からの相談件数が多いことから、5職種が連携し平成25年より取り組む「かもめプロジェクト」では、企画会議から参画し、企業コラボ（ダイエー）のほか区役所、区社協と協働して、住民同士の顔の見える関係づくりが進められるよう努めました。
- ・地区社会福祉協議会と協働して、高齢者の生活課題や支援ニーズの情報共有を行い、既存の相談窓口を中心とする福祉ネットワークの活動を拡充するために助け合い活動の立ち上げに向けた準備会を発足して定期的に検討を重ね実施する方向で進めることができました。

(2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

- ・ 連合自治会圏域にある（沢ヶ谷、北、駅前プラザ、うぐいす、つぐみ、ひばり、榎戸）のサロンに参加しました。また、かもめシルバー会には毎回テーマを決めて参加し、振り込め詐欺の注意喚起や防災の備え、お墓事情（講師の調整）、認知症予防の手遊び、健康体操などを行い、茶話会でお話しを聞く場面では一人暮らし高齢者の生活実態を把握するとともに、生活課題を聞き取り、解決に向けた取組を5職種や区カンファレンスで共有検討しました。
- ・ 港南台支えあいネットワークより、地域の担い手不足が深刻化してきたことから、地元中学生のOBを新たな地域活動者の担い手となるよう、ふるさとを育むをテーマに「一中OB会」を発足しました。連合自治会、商店会と連携し、港南台夏祭り実行委員会に参加し、OB会ブースを設置し、過去の新聞記事パネル展や歴代ジャージ展示会など中学生、卒業生が集えるコーナーを設置しました。設営や運営を手伝うなどの次年度に向けた多世代卒業生8人の協力者が得られました。また、OBから中学性に向けたメッセージを募り、そのメッセージボードを中学校に展示するなど、ふるさと愛が育むような仕組みづくりを進めました。次年度は中学生と共に作る夏祭りを企画していきます。
- ・ 地域特性として、高齢者の生活で不便を感じているなどの課題が見えにくいところから、港南台シルバークラブに協力を求め「買い物アンケート」を約600世帯対象に実施しました。高齢者の生活実態の把握とともに移動手段や時間帯、行きたい場所など情報をエリア別で集計し、地域の課題解決の場となり得る会合等で情報提供できるよう進めています。

(3) 連携・協議の場

- ・ 一昨年より開催した生活支援体制整備事業に伴う協議体では、高齢者の実態把握と共通認識に時間を要しましたが、連合自治会、地区社会福祉協議会、シルバークラブ、民生委員児童委員、訪問診療等と連携を深め、助け合い活動の重要性を再確認しながら、活動の立ち上げに向けて前進することができました。その都度、事前に支援チーム会議を開催し、何が足りないか、どう進めるべきかなど区役所、区社会福祉協議会と連携して取り組むことに努めました。
- ・ 連合自治会圏域での住民同士による助けあい活動を港南台社会福祉協議会と協働して「福祉ネットワーク」拡充の取組を進めることができました。お願いする方、される方が負担感のないように、ケアプラザが窓口となり、地域のつながりを広げる取組として継続した活動が進められるよう努めました。

(4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

- ・ 協議体では日下地区と大久保最戸地区の福祉ネットワークに活動事例を情報提供いただき、区域の取組を把握するとともに課題抽出を実施しました。受付窓口の役割やコーディネート機能の充足、認知症への対応、クレーム処理、ボランティア募集など検討を重ね、活動が継続するよう高齢化に向けた地域独自の取組として、地域へ周知を図ると共に仕組みづくりを整備することに努めました。
- ・ 地域防災拠点と連携した防災訓練を実施し、地域特性を把握するとともに福祉避難所の周知に努めました。また、年4回開催の「防災を考える会」では、訓練報告を実施し、港南台消防出張所、南部病院、医療福祉センター港南、福祉施設等と意見交換や情報交換など共有の場を設け連携を深める取組を進めることができました。
- ・ 地域住民が主体となり地域のマスタープラン作成を2020年に目標とした「港南台街&暮らし白書プロジェクト」に参画し、地域の過去現在未来の地域資源や生活課題、移動手段など検討しました。都市整備局OBによるハード面の整備検討とソフト面として高齢化に伴う生活課題や助け合い活動、交流拠点など地域特性の情報提供に努めました。

4 地域包括支援センター運営事業

(1) 総合相談支援業務

① 地域におけるネットワークの構築

- ・今年度はエリアの団地の管理人と懇談会を実施し情報の共有化を図り、顔の見える関係性を作ることで支援にもつながりやすくなりました。
- ・北自治会では昨年に実施した地域ケア会議から介護予防事業を開催し体操教室に発展をしまし支援者のつながりなどが強化されました。
- ・連合自治会や民児協の定例会への出席の他、JAでの隔月の出張講座等で包括支援センターの周知を継続的に行いました。
- ・原南自治会では、毎年出張講座の依頼があり、健康や認知症予防の取り組みの他、包括支援センターの紹介や介護保険制度の説明、意見交換会を行うと共に、住民同士のつながりの必要性を伝え、自主活動の働きかけを行いました。
- ・団地の民生委員、管理事務所や団地のエリアマネージャーとのネットワークが出来たことで家賃滞納やゴミ屋敷状態の住居が早めにつかむことが出来、支援にもつながりやすくなりました。
- ・港南台地区医師会の方との会合に参加し現状の把握などをしました。
- ・会合等で得た情報は毎月の5職種連携会議にて共有をしています。
- ・毎月区との定例会に生活支援課や区社協、UR団地のエリアマネージャーなども参加し情報の共有をしています。

② 実態把握

- ・日頃の相談や事業、地域の民生委員、自治会へ行ってきたアンケート等、地域活動団体から情報を収集し、地域での共助のしくみや活動等を把握しました。
- ・相談を町別に集計して、相談内容と地域性との関係性について分析をしています。
- ・民生委員の定例会に出席し高齢者の情報、地域課題の共有を行いました。
- ・地域のインフォーマルサービスなどについては、生活支援 Co と地域交流 Co が連携しながら活動の把握や関係づくりを行いました。
- ・自主事業を開催した際にアンケートを実施し情報を収集し課題の共有をしました。
- ・横浜市のパortalサイトの町別人口等を参考に事業の実施場所を選定しました。
- ・地域の会合（連合、民児協等）に定期的に参加して情報を収集し、圏域内の実態把握に努め事業展開に活かしています。
- ・地域の課題の多い団地のシルバー会に毎月1回参加して実態把握に努めています。
- ・近隣のJAと協働して年金支給日に相談会を開催して実態把握に努めました。
- ・団地を管理している管理人と懇談会を持ち実態の把握や関係性を構築しました。

③ 総合相談支援

- ・地域の住民からの総合相談に関しては当事者のみならず、家族や地域の状況もふまえて、包括3職種が連携し、速やかに訪問して本人・家族のニーズを把握するなど総合的に支援しました。
- ・総合相談としての機能を十分に発揮するために「窓口当番」を設け、いつでも相談に対応できる体制を確保しました。
- ・内容を的確に把握し、ケアプラザの事業やケアプラザでは対応できない事業に関しては地区センター、蓬萊荘などの事業につなげました。ケースによっては法テラス、あんしんセンター、港南区生活支援センターにつなぎ継続的に支援しました。
- ・必要に応じて行政や医療機関、制度、各種制度につなげることが出来ました。生活困窮者の相談、救急対応が必要な場合など緊急性が高い相談について区役所と連携して速やかに対応しました。

- ・介護者の方から施設を見学したいがなかなか行くことが出来ないという要望からデイサービスの送迎車を利用してグループホームや特養の見学会を開催しました。現地集合も含め10名を超える参加者がありました。
- ・近隣の方の相談や講座でのアンケートで「家族信託」の事を知りたいという要望に司法書士を呼んで講座を開催しました。また、一人暮らしの方が自宅で最後まで暮らしていきたいから往診についての話が聞きたいという相談から近隣の訪問診療クリニックに協力をしてもらい「訪問診療について」の講座を開くなど、ニーズに応じた講座等の開催をしました。
- ・港南台の総合福祉相談会やケアプラフェスタ（バーズの広場）、港南台コミュニティーハウスフェスティバルで相談コーナーを出して地域の様々な相談を受けました。
- ・老人福祉センター蓬莱荘にて月1回実施している「なんでも相談会」を区社会福祉士分科会で担当し、その窓口・調整役をしました。

（２）権利擁護業務

①成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

- ・成年後見制度が必要となるケースは区役所や専門職（弁護士・司法書士・行政書士など）と連携をとりながら、被後見人の利益が最大限確保されるよう支援しています。
- ・第三者後見人が必要な場合は、適切と思われる専門職団体を選定できるよう情報提供を行いました。
- ・成年後見制度が必要となるケースは区役所や専門職（弁護士・司法書士・行政書士など）と連携をとりながら、被後見人の利益が最大限確保されるよう支援しています。
- ・第三者後見人が必要な場合は、適切と思われる専門職団体を選定できるよう情報提供を行いました。
- ・成年後見制度について、出張講座や包括の広報の場でPRを行いました。
- ・近隣の団地で「架空ハガキ」が発生していることから、民生委員の定例会で悪徳商法についての現状などを伝えていきました。
- ・一人暮らしを対象にした「おひとりさまの会」を隔月に開催し毎回約30名の参加がありました。「家族信託」や「お墓」「遺言、相続」など参加者が知りたいテーマ設定にして専門家をお呼びして話を聞いたり情報交換したりしました。「遺言、相続」に関しては個別相談も実施しました。
- ・「こんな時呼んでください」のチラシを作成し近隣の医療機関、金融機関などに配布し、相談機能の周知や振込詐欺等の防止を図っています。
- ・個別の相談では法定後見2名の支援を行い、後見人等が審判され安心した生活が継続されました。
- ・虐待ケースでは区と連携して区長申し立てにつなげました。
- ・CMからの相談で宗教の勧誘から避けるために任意後見の支援を行いました。
- ・後見人がついた後も後見人の支援として介護保険や入所のサポートなどを行いました。
- ・相談窓口申請書に申請書を常備し、申請書の記入の仕方を説明するなど、相談者の要望に応じて「申し立ての手引き」も一緒に渡しています。最近は施設、病院からの相談も増えています。
- ・近隣の銀行や郵便局などとも認知症サポーター講座以降連携を取り合っているので不審な高齢者に関しては包括に連絡が入ります。
- ・次年度から市域で配布される「エンディングノート」の準備会に区の代表として区役所の職員と出席し原案作りをしました。そして、来年度の区域での普及啓発に向けて話し合いを進めています。

②高齢者虐待への対応

- ・虐待が疑われるケースには、区役所や関係機関と連携を図り迅速に対応しました。カンファレンスを実施することで、支援内容と方向性を統一し、適切な支援を行いました。通報によっては即日に自宅や病院に訪問をして実態把握に努め、区長申し立てにつながり分離に関してはGHを見つれたり区と連携を取りながら終結に向けて対応しました。
- ・多問題のケースについては区の生活支援のCW、精神CWやCM等と連携を取りながら対応をしています。
- ・日頃から民生委員や地域住民と交流を持つことで、より迅速な高齢者の実態把握を行い「地域の目」を活かし早期発見に努めました。
- ・「介護者のつどい」は、介護者向けに介護保険外サービスについての講座や施設見学会を開催し、介護者に情報を提供しました。参加者からは日ごろの悩みなどを打ち明ける場としても継続してほしいと要望があります。
- ・「介護者のつどい」「認知症家族のつどい」では隔月開催し延べ100名近い参加があり、虐待の抑止力になっています。
- ・区社福士分科会として港南区ケアマネ連絡会で虐待についての研修会を1月に予定をしています。虐待の制度やグループワークなどを通して情報の共有を予定しています。
- ・包括エリアにおいてCMと民生委員との懇談会で高齢者虐待のグループワークを実施し早期発見早期対応の重要性の確認をしました。
- ・区社会福祉士分科会の虐待班で今年は出前講座を港南区新任CM向け(20名)、日限山CPで民生委員とCM対象など、高齢者虐待についての出前講座を開催しました。打ち合わせや資料作成などを担いました。
- ・包括内では新しい職員も入ってきているので虐待マニュアルの読み合わせやリスクアセスメントの確認をしています。
- ・第一報で一人では判断せず複数の目で確認し情報の共有化に努め迅速に対応するようCP全体で取り組んでいます。

③認知症

- ・認知症サポーター講座は毎年実施している2つの中学校で早い時期から認知症に対する正しい理解を広め、誰もが住みやすい街づくりを目指しました。また港南台地区センター職員向け、港南台地区センターでの一般向けは港南台地区社協と共催で地域向けに認知症サポーター講座を実施しました。
- ・「認知症 家族のつどい」では認知症の第一人者の川崎幸クリニックの杉山先生や、神奈川県認知症家族の会の方がアドバイザーとして参加し、参加者に対して貴重なアドバイスをいただきました。毎回、10~12人の参加がありました。
- ・「こんな時呼んでください」のチラシを作り地域の方や店舗に配布し、周知していただき、地域の方々からの情報を活かし早めの対応をしました。
- ・JAでの出張健康相談にて、脳トレ等を実施して疑わしい方は、適切な支援につなげました。
- ・イベント「ケアプラフェスタ」において、協力医の篠田先生がバーズの広場において地域向けに「認知症とともに生きる港南台」という表題で講座を実施してもらい多くの方に認知症の理解を深めてもらいました。
- ・地域のシルバークラブや自治会からの認知症予防講座の依頼も多くありました。認知症の話をするだけでなく地域でのつながりや見守り、支え合いの重要性について話をしました。
- ・今年の1月から協力医の先生や看護師、栄養士などと協働して認知症カフェを月1回開催しています。コーヒーを飲みながら協力医の講座を聞いたり会話を楽しんだりしています。4月からは会場が手狭になったので広い会場に移して実施をしています。
- ・認知症カフェの拡大版として「糖尿病教室」を開催し日常生活の過ごし方について学びました。
- ・男性限定「お~いらかい」は認知症の方の社会参加の居場所にもなっています。毎月1回、散策、料理など自分たちで決めたスケジュールを実施しました。

- ・支援困難ケースを認知症支援チームと連携し介護サービスにつなげ在宅生活を継続しています。
- ・港南区の社会福祉士分科会で今年は2回「若年性認知症つどい」を開催しています。今年度は自主化に向けての話し合いを進めています。家族会では精神科の医師や神奈川県認知症家族の会からも参加があり貴重なアドバイスをいただいています。若年認知症ならではの就労や住宅ローンなどの話題もあがっています。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

①地域住民、関係機関等との連携推進支援

- ・地域のケアマネジャーと民生委員との懇親会を催し総勢50名ほどの参加がありました。区のCWに高齢者虐待についての講義をしてもらい、その後グループワークを経て共に学び、相手を知る有意義な機会を提供しました。また、その場でも「港南区民生委員・ケアマネジャー連絡票」について改めて周知しその活用を双方に促しました。
- ・地域のシルバー会やサロン等には包括職員輪番で参加するようにし、身近な相談窓口として周知に努めました。また、10月から開催したサービスBのこもれびカフェについては運営に関して助言したり、住民、CMに周知することを積極的に努めて、利用者の増加を共に目指しています。

②医療・介護の連携推進支援

- ・医福ネット港南は4月、10月に開催しました。歯科医師会の参加も新たに加わり、連携の輪が広がっています。今年度も引き続き事務局として関わりました。2月は区との共催で実施する予定です。
- ・ホームケアクリニックと共催の「語る会」を今年度も引き続き行い、医師、訪問看護、ケアマネとの気楽なミニ勉強会として定着してきています。
- ・医福ネットにも語る会にも在宅相談室にも参加してもらい、共に医療との連携の構築に尽力しています。
- ・南部病院の地域相談室や入退院センターと共催でケアマネ向けに病院との連携についての研修を企画運営し総勢40名の参加、顔の見える関係づくりの一環として効果があり、好評でした。
- ・地域の介護保険事業所の運営推進会議にもできる限り出席し、関係強化に努めました。
- ・南部病院、港南台病院とは定期的にカンファレンスの機会をもち、情報、意見交換をしています。

③ケアマネジャー支援

- ・南部病院の地域相談室や入退院センターと共催でケアマネ向けに病院との連携についての研修を企画運営しました。具体的にどう連携したらいいのか、理解が深まったと好評でした。
- ・2月にはケアマネジャーが医療的な知識を身につけるために協力医に協力を得て「医師と話せるカフェ」をケアマネジャー向けに企画しています。
- ・地域のケアマネジャーと民生委員との懇親会を催し総勢50名ほどの参加がありました。区のCWに高齢者虐待についての講義をしてもらい、その後グループワークを経て共に学び、相手を知る有意義な機会を提供しました。生活支援コーディネーターとともに見守り事業について説明し周知、協力を求める機会になりました。
- ・ケアマネジャーからの相談から地域のニーズを掘り起こし、地域でのインフォーマルサービスの構築に協力しました。
- ・ケアマネジメント講座として、法改正やインフォーマルサービスをテーマとした研修を、主任ケアマネ分科会で開催しました。(年に3回)

- ・主任ケアマネジャー分科会と共催で、「ケアマネサロン」を港南台地域ケアプラザ(偶数月)と港南中央地域ケアプラザ(奇数月)を会場に継続し実施しました。
- ・自主勉強会支援として、区内の主任ケアマネジャー(9名)が輪番で自主勉強会に出席し、助言、指導など行いました。
- ・新任ケアマネジャー向けの施設見学会(3日間)と、ケアマネジメント初級講座(5日間)を例年と同様に継続して開催しました。

(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

- ・昨年度行った地域ケア会議で「こもっている人に地域にどう出てきてもらえるか？」との課題があがりました。その課題解決の一環として、生活支援コーディネーターとともにノルディックウォーキングや蓬萊荘への移動支援など住民向けに企画し実施しました。地域ケア会議に出席していただいた近隣店舗に主旨を理解していただいた上での協力を得ることができました。介護予防、見守り事業にも地域貢献として参加してもらえる関係性が近隣店舗や蓬萊荘とつくることができました。
- ・個別ケースのケア会議をすでに2回催しました。
どちらも認知症の方をどう支えていくかとのテーマで、医師はもちろん、弁護士にも参加してもらい、権利擁護の観点からも貴重な意見をいただきました。
UR住宅におけるケア会議ではURの関係者も参加、継続的な連携が必要と考え、月に1度区役所とのカンファにも出席し情報交換し協働する体制が整い始めています。

(5) 介護予防ケアマネジメント(指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業)

介護予防ケアマネジメント(指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業)

- ・地域のケアマネジャーから預かったプランは介護保険外サービスや趣味活動なども記入するように付箋にコメントを記入して返却しています。その甲斐あってプランの一部ですが、趣味活動や介護保険外のサービスの記入も増えてきています。
- ・プランの書き方に苦慮しているケアマネジャーには、評価がしやすいように目標設定の仕方を付箋に記入し、また具体策についても例題で記載しています。
- ・インフォーマルサービスや、地域やケアプラザでの体操教室の紹介を行っています。
- ・生活支援コーディネーターと共に、地域資源の情報(蓬萊荘、コミュニティハウス、地区センター、自治会・集会所)を更新していくと共に、港南台地域の課題を抽出し、総合事業へつなげられるように地域の活動団体や地区社協等に協力を依頼していきます。

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

- ・今年度は5月に3回シリーズでスリーAの要素を含んだボランティア育成講座を開催しました。
それぞれ地域のボランティア活動をされてる方から民生委員に参加していただき、港南台地域全体で認知症予防に取り組んできました。
- ・10月、11月には介護予防講座「めじろおし」を開催。参加人数は少なかったものの、講師との距離が近く実演コーナーも設けたりと、より充実した内容で開催できました。
- ・JAの健康窓口相談では、その時にあったチラシを配布し注意喚起してきました。また、5分程度の待ち時間でできる脳トレや血管年齢測定、握力測定を実施。数字で結果が出るので、ゲーム感覚でチャレンジする方も多くいました。又、今年の6月には隠れ

栄養不足の注意喚起も行いメイバランスの試飲をしていただきました。夏場は脱水で救急搬送された方が多く8月（12月隠れ脱水）大塚製薬のOS1の試飲をし脱水の予防対策で経口補水液の紹介をしました。

・「おーいらくかい！」では認知症の方も参加されていますが、身体面でも徐々にではありませんがフォローが必要な状況になっています。横浜港見学の移動時や、調理などのサポートが必要であり参加メンバーの一部の方々には見守りや声掛け等の協力をお願いしています。

5 その他

・生活支援体制整備事業に伴う協議体では港南台社会福祉協議会と協働して「港南台福祉ネットワーク助け合い活動」準備会を進めてきました。参加者は地区社会福祉協議会、連合自治会、シルバークラブ連合会、民生委員児童委員、商店会、在宅医療、福祉施設に参加を呼びかけ、区役所、区社会福祉協議会と連携して検討を重ねました。

・すでに地域で取り組む福祉ネットワークの活動団体にご参加いただき、支援ニーズを情報共有し、地域特性に見合った仕組み作りを検討しました。

【次年度の課題・目標】

・協議体を継続し検討を重ねて、地域の支援ニーズの把握、情報共有の場とし、ネットワークの構築、サービスの創出に向けて取り組みました。

施設の適正な管理について

(1) 施設の維持管理について

・施設の保守業務、清掃業務、環境管理業務については、当施設を含むビル全体の施設保守業務を行っている会社に委託し、施設の定期点検並びに適切な維持管理を行っていきました。

・20年を経過した施設、建物の維持管理には、年数経過による故障も予測される中、日常の管理を通して不都合の早期発見に努め、適切・迅速に対応しました。

・委託会社の清掃の他にクリーンスタッフが清掃を行い、清潔な状態で利用していただけるよう心掛けました。毎朝、職員が施設内の巡回を行い、安全に事業が行えるようチェックし、外回り清掃についても委託会社が行うほかに職員も行いました。

(2) 効率的な運営への取組について

・介護保険の適切な請求による収入の確保、経費節減の徹底による支出の抑制を基本的な取り組み姿勢として、事業計画に沿った適正な予算執行を行いました。

・法人の所長会で情報共有や同じ課題の検討を行い、業務の見直しや推進に努めました。また、ケアプラザの5部門、各専門職間でそれぞれの特性を活かした連携が取れるように、適宜会議の開催により意見調整を行い効率的な施設運営に心がけました。

(3) 苦情受付体制について

- ・ ケアプラザ利用に際して、ご意見や苦情などについては、いつでも気兼ねなくお話し頂けるよう「苦情受付責任者・苦情受付担当者」を選任し、来館時に目に見える場所に掲示、またサービス提供時での文章等での説明をきちんと行いました。
- ・ 「苦情」については、法人の「苦情解決規定」に沿って対応しました。
- ・ 施設内入口に「意見箱」を設置、また「ご意見ダイヤル」の案内を掲示し、いつでもどなたでもご意見を受け付けられるようにし、利用者の声を施設運営に反映させていきます。また「第三者委員会」を開催して、指導・助言をいただき、問題解決に反映する取組を行いました。
- ・ 毎年実施している利用者アンケートや通所介護での嗜好調査を行い、結果を施設内に掲示、プラザ便りやデイ新聞等で公表するとともに、振り返って改善を図ってまいりました。

(4) 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

- ・ ビル管理会社及び警備会社に委託し異常時に即刻対応できるようにしました。
- ・ 消防法に基づく自主防災訓練及び自主消防訓練、ビル管理会社や済生会横浜市南部病院が行う防災訓練に参加し、職員の意識向上に努めます。また、港南台第二小学校地域防災拠点と連携し、地域の防災訓練にも積極的に参加しました。
- ・ 地震発生時、速やかに施設の点検・確認、区への報告を行い、横浜市と締結している「特別避難場所」の開設に向けてマニュアルに基づき行動しました。また、災害時に各職員と連絡が途絶えないように様々な手段での緊急連絡網の整備を検討し、迅速、確実、安全な対応が取れる体制づくりに努めました。
- ・ A E Dが施設内に設置してあり、利用者の急病発生時には迅速に対応しました。また、全職員を対象にA E D研修を実施しました。
- ・ 施設利用者が感染症を疑うような状態が生じた場合に、すぐに対応できるよう常に感染症対応グッズを用意、職員へも毎年研修を行いました。また、手洗いの必要性や方法について館内に掲示しました。
- ・ その他、緊急時対応のマニュアルは適時見直し、実情に沿った改善を図りました。

(5) 事故防止への取組について

- ・ 事故防止のためヒヤリハット事例などリスクマネジメントについて、ミーティング、諸会議や研修等で逐次職員に周知し、常に事故防止の意識を高めました。
- ・ ヒヤリハット事例については、事故防止対策委員会や職員会議において、その原因と今後の対応策などについて検討し、その結果を速やかに周知することにより職員の共通認識と注意喚起を促し、事故防止に取り組みました。
- ・ 「事故防止・発生時対応マニュアル」で明確にしているように「事故報告（第一報）の電話連絡経路」「港南台地域ケアプラザ利用者救急対応フロー図」を常に確認できるよう事務所やデイルーム内に掲示しました。

(6) 個人情報保護の体制及び取組について

- ・個人情報保護について、全職員に対しては個人情報保護に関する研修を年2回実施し、その重要性を周知徹底するとともに、横浜市個人情報保護条例を遵守し、退職後も同様とする旨の周知を行ってまいりました。
- ・年度初めの研修終了後、個人情報保護の重要性を職員に意識づけするため、「個人情報保護に関する誓約書」の提出、「地域ケアプラザ個人情報漏えい防止チェックシート」を実施しました。
- ・利用者、実習生、ボランティアからも、契約時に個人情報の保護に関する誓約書や同意書を得るなど徹底を図ってまいりました。

(7) 情報公開への取組について

- ・情報発信の重要なツールであるケアプラザ広報紙「プラザ便り」「デイ新聞」を毎月発行します。地域の多くの皆様に読んでいただけるよう、内容や表示等更に工夫改善を図りました。
- ・配布については、より広く周知できるよう自治会での回覧、民生委員・児童委員協議会の定例会での情報提供の他、施設内外での事業開催時に、積極的に広報しました。
- ・介護サービス情報公表制度の活用や、同一法人の済生会横浜市南部病院のホームページに併設している当プラザのホームページを活用して、地域の方に情報を公開しました。
- ・施設内においても、利用者等に施設の年度計画や実績等自由に閲覧できるよう公開しました。

(8) 人権啓発への取組について

- ・年間計画に沿った研修の実施に取り組むとともに、チームづくりに関する研修への参加を積極的に進め、円滑なコミュニケーションがもたらす職場環境の向上を目指しました。
- ・職員の資質向上では、外部研修の受講をはじめ、介護福祉士を目指すデイサービス職員の同資格試験直前模擬講習会への参加費用の一部を新たに助成しました。
- ・横浜労働基準監督署と横浜市等が合同で企画した「社会福祉施設の災害防止対策と健康づくり」に参加するなど、広く職員の健康をテーマとした研修等にも参加をしました。
- ・各種研修の受講後は、研修報告書を作成・供覧し、職員全体のレベルアップを心がけました。
- ・職員との面接は、非常勤職員全員と所長等との個別面談を実施しました。

(9) 環境等への配慮及び取組について

- ・施設内の節水、節電により一層努めるとともに、冷暖房温度の設定にも十分配慮した対応を行い、環境にやさしい施設運営を心掛けました。
- ・ごみの減量化については、分別によるリサイクル化の継続的な取り組みを推進してまいりました。
- ・インクカートリッジの回収ボックスを設置して、地域の方にも協力をお願いしてまいりました。

介護保険事業

● 指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

《職員体制》

・看護師	常勤	1名
・主任ケアマネジャー	常勤	1名
・社会福祉士	常勤	2名
・介護支援専門員	非常勤（兼務）	1名

《目標に対する成果等》

- ・ケアマネジャーが作成したケアプランが介護保険のサービス記入だけでなく、それ以外の活動内容も網羅されるように普及啓発が求められていました。
- ・今後も地域の情報（蓬莱荘・コミュニティーハウス・地区センター・自治会・集会所）を更新していくと共に課題を抽出し、協議体や地域と共に話し合いを進めていくことが必要になりました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- 通常のサービス地域を越える地域に訪問・出張がある場合には、その旅費（実費）の負担をお願いすることがありました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ・委託先のケアマネジャーに対して、より良いケアマネジメントが実施できるよう予防プランの相談など個別支援を実施していきました。
- ・今年度は、来年2月に区全体で介護予防従事者研修を予定しています。
- ・地域のサロン、体操教室などの情報も収集し、委託先のケアマネジャーに情報提供していきました。

《利用者実績》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
134	252	143	358	116	308
10月	11月	12月	1月	2月	3月
285	441	135	204	172	204

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

・介護支援専門員（管理者）	常勤	1名
・介護支援専門員	常勤	2名
・介護支援専門員	非常勤（兼務）	1名

《目標に対する成果等》

「住み慣れた地域で、ご本人・ご家族が安心して暮らし続けられるように」を目標に、その方の思いや生活状況の把握に努め、介護保険サービスだけでなく、地域資源を組み入れた支援を提案しました。認知症や精神疾患をかかえた高齢者、暴力やネグレクト等の虐待ケースも、各支援関係機関と連携を図り支援しました。また緊急時や災害発生時に、適切な支援につなげられるように「災害緊急ケースファイル」の更新に努めました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- 通常のサービス実施地域を超える地域に訪問・出張がある場合は、その旅費（実費）の負担をお願いすることがありました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

地域ケアプラザ内にある居宅介護支援事業所であり、地域の関係者や民生委員と顔の見える関係が作りやすく、包括支援センターや区役所と連携を図れることにより、地域で安心して暮らせる支援体制ができてきました。

指定管理者を受託している居宅介護支援事業所としての役割を地域へ広報し、支援体制を強化することで、地域住民の皆様が心身ともに健やかに安心できる生活が実現するように、地域・医療・福祉の連携に努めました。

《利用者実績》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
83	83	82	91	88	90
10月	11月	12月	1月	2月	3月
89	91	91	92	89	92

● 通所介護・認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

- 入浴

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

①基本料金（一日）

	1割負担	2割負担
要介護1	809円	1619円
要介護2	941円	1882円
要介護3	1080円	2159円
要介護4	1216円	2431円
要介護5	1353円	2706円

②加算（一日）

サービス体制強化加算 I 1

	1割負担	2割負担
サービス体制強化加算 I 1	20円	39円

③入浴加算（一回）

	1割負担	2割負担
入浴介助加算	54円	108円

④食費（一食・おやつ代も含む）

御食事代（実費）	700円
----------	------

☆別途、介護職員処遇改善加算が加わります。

《事業実施日数》 週 7 日
週 6 日（10月より月曜日～土曜日）

《提供時間》 9:30 ～ 16:35

《職員体制》

・管理者	常勤（兼任）	1名
・看護師	非常勤（兼任）	4名
・機能訓練指導員	非常勤（兼任）	4名
・生活相談員	常勤	1名
・介護員	常勤	1名
・介護員	非常勤	13名
・運転手	非常勤	4名

《目標に対する成果等》

- ・サービスの質の向上
レクリエーション・行事の充実を図ります。又設備の点検整備や修繕を行い、過ごしやすい環境をつくりました。
- ・職員の能力の向上
外部研修への参加を予定していましたが、職員不足により参加が難しくなっています。
- ・利用者一日18名の確保
新規利用者の確保・定着に努めます。又、臨時利用（スポット利用）の対応も積極的に行います。

居宅介護支援事業所へ空き状況等のお知らせを定期的に配布し、PR活動を行いました。

さまざまなニーズに応えられる様、個別対応も検討していきました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ・定期的な勉強会の開催により、スタッフのスキルアップを行い専門的なケアを提供していきました。
- ・昼食について、利用者アンケートを活用し、毎月の給食会議にて話し合いを行い、利用者の満足度を高めていきました。

《利用者実績（延べ人数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
377	406	397	363	345	345
10月	11月	12月	1月	2月	3月
373	351	313	328	354	357

● 介護予防通所介護・第1号通所事業・介護予防認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

- 介護予防通所介護
- 日常生活支援総合事業
- 介護予防・日常生活支援総合事業選択サービス
(運動器機能向上・口腔器機能向上)

《実費負担(徴収する項目ごとに記載)》

① 基本料金(月額)

	1割負担	2割負担
要支援1	1766円	3531円
要支援2(週1回程度)	1766円	3531円
要支援2(週2回程度)	3621円	7241円

② 加算(月額)

	1割負担	2割負担
サービス体制強化加算 (要支援1)	78円	155円
サービス体制強化加算 (要支援2 週1回程度)	78円	155円
サービス体制強化加算 (要支援2 週2回程度)	155円	309円
運動器機能向上加算	242円	483円

④ 食費(一食・おやつ代も含む)

御食事代(実費)	700円
----------	------

☆別途、介護職員処遇改善加算が加わりました。

《事業実施日数》 週 7 日
週 6 日(10月より月曜日～土曜日)

《提供時間》 9:30 ~ 16:35

《職員体制》

- ・ 管理者 常勤(兼任) 1名
- ・ 看護師 非常勤(兼任) 4名
- ・ 機能訓練指導員 非常勤(兼任) 4名
- ・ 生活相談員 常勤 1名
- ・ 介護員 常勤 1名
- ・ 介護員 非常勤 13名
- ・ 運転手 非常勤 4名

《目標に対する成果等》

- ・ 運動器機能向上は、現在利用されている方や見学で来所された方等にその目的や効果を説明し、より多くの方に参加していただけるよう努めました。

《その他(特徴的な取組、PR等)》

- ・ 済生会横浜市南部病院の理学療法士に機能向上のためのプログラムの作成を依頼して、毎月の評価を行います。又、3ヶ月に一度プログラムの見直しを行いました。プログラムの内容は自宅でも気軽に無理なく一人で出来る運動を、わかりやすく指導します。

またサービス利用日は個別に自転車漕ぎ・歩行練習等のプログラムも行いました。

《利用者実績（契約者数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
11	12	11	11	10	10
10月	11月	12月	1月	2月	3月
11	11	10	9	9	9

平成30年度「横浜市港南台地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書（一般会計）＜地域活動交流＞

収入の部

(単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	18,151,500	349,544	18,501,044	18,501,044	0	横浜市より
利用料金収入			0		0	
指定管理料充当 事業	0		0		0	
自主事業収入			0	205,400	△ 205,400	
雑入	0		0	128,670	△ 128,670	
印刷代	0		0	73,158	△ 73,158	
自動販売機手数料			0	0	0	
駐車場利用料収入			0	0	0	
その他 (指定管理料充当)	0		0	55,512	△ 55,512	保険精算
その他 (施設使用料相当額 法人負担分)	1,977,500		1,977,500	1,977,500	0	
その他 (提案時控除 法人負担分)			0		0	
収入合計	20,129,000	349,544	20,478,544	20,812,614	△ 334,070	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	10,435,500	0	10,435,500	9,760,446	675,054	
本俸	7,635,000		7,635,000	7,297,329	337,671	
社会保険料	802,000		802,000	597,246	204,754	
手当計	1,963,500		1,963,500	1,844,871	118,629	
健康診断費	15,000		15,000	0	15,000	
勤労者福祉共済掛金			0	0	0	
退職給付引当金繰入額	20,000		20,000	12,348	7,652	
その他			0	8,652	△ 8,652	
事務費	894,000	0	894,000	530,234	363,766	
旅費	27,000		27,000	13,351	13,649	
消耗品費	120,000		120,000	181,243	△ 61,243	
会議賄い費			0	0	0	
印刷製本費	40,000		40,000	24,687	15,313	
通信費	90,000		90,000	85,433	4,567	
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分			0	0	0	
その他			0	0	0	
備品購入費			0	153,134	△ 153,134	
図書購入費			0	0	0	
施設賠償責任保険	6,000		6,000	5,820	180	
職員等研修費	5,000		5,000	0	5,000	
振込手数料	12,000		12,000	9,873	2,127	
リース料	250,000		250,000	0	250,000	
手数料			0	5,033	△ 5,033	
地域協力費	30,000		30,000	29,500	500	
その他	314,000	0	314,000	22,160	291,840	
事業費	331,500	0	331,500	364,530	△ 33,030	
運営協議会経費	42,000		42,000	5,921	36,079	
指定管理料充当 事業	289,500		289,500	358,609	△ 69,109	
管理費	7,633,160	349,544	7,982,704	6,529,205	1,453,499	
建築物・建築設備点検	133,100	0	133,100	174,352	△ 41,252	
光熱水費	2,746,341	0	2,746,341	2,982,627	△ 236,286	
電気料金			0	746,536	△ 746,536	
ガス料金			0	525,866	△ 525,866	
水道料金			0	1,710,225	△ 1,710,225	
清掃費			0	0	0	
修繕費	474,000	349,544	823,544	439,771	383,773	
機械警備費	174,873		174,873	174,873	0	
設備保全費	1,586,359	0	1,586,359	1,023,416	562,943	
空調衛生設備保守			0	0	0	
消防設備保守			0	0	0	
電気設備保守			0	0	0	
害虫駆除清掃保守			0	0	0	
駐車場設備保全費	500,000		500,000	454,255	45,745	
その他保全費	1,086,359		1,086,359	569,161	517,198	
共益費			0	1,340,862	△ 1,340,862	管理費 修繕積立金
その他	2,518,487		2,518,487	393,304	2,125,183	
公租公課	834,840	0	834,840	780,835	54,005	
事業所税			0		0	
消費税	834,840		834,840	780,835	54,005	
印紙税			0		0	
その他 ()			0		0	
事務経費 (計算根拠を説明欄に記載)	0	0	0	0	0	
本部分			0		0	
当該施設分			0		0	
二一ス対応費			0		0	
支出合計	20,129,000	349,544	20,478,544	17,965,250	2,513,294	
差引	0	0	0	2,847,364	△ 2,847,364	

自主事業費収入	289,500		289,500	205,400	84,100	自主事業への参加料等
自主事業費支出	289,500		289,500	358,609	△ 69,109	自主事業経費
自主事業収支	0	0	0	△ 153,209	153,209	

管理許可・目的外使用許可収入	0		0		0	駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出	0		0		0	使用料(横浜市への支払等)
管理許可・目的外使用許可収支	0		0		0	

平成30年度「横浜市港南台地域ケアプラザ」
 収支予算書及び報告書（特別会計）＜包括・介護予防・生活支援＞

収入の部

(単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料（包括）	29,271,000	0	29,271,000	29,271,000	0	横浜市より
指定管理料（介護予防）	151,000		151,000	151,000	0	横浜市より
指定管理料（生活支援）	5,789,000		5,789,000	5,789,000	0	横浜市より
利用料金収入			0		0	
指定管理料充当事業（包括）	0		0		0	
指定管理料充当事業（介護予防）	0		0		0	
指定管理料充当事業（生活支援）	0		0		0	
自主事業収入			0	45,300	△ 45,300	
雑入	0	0	0	0	0	
印刷代	0		0	0	0	
自動販売機手数料	0		0	0	0	
駐車場利用料金収入	0		0	0	0	
その他（指定管理充当分）	0		0	0	0	
その他（提案時控除 法人負担分）			0		0	
収入合計	35,211,000	0	35,211,000	35,256,300	△ 45,300	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	29,346,000	0	29,346,000	27,603,351	1,742,649	
本俸	17,671,000		17,671,000	15,286,166	2,384,834	
社会保険料	3,533,000		3,533,000	3,537,450	△ 4,450	
手当計	7,749,000		7,749,000	8,298,331	△ 549,331	
健康診断費	0		0	0	0	
勤労者福祉共済掛金	163,000		163,000	193,980	△ 30,980	市社協共済
退職給付引当金繰入額	230,000		230,000	241,164	△ 11,164	
その他			0	46,260	△ 46,260	
事務費	2,787,000	0	2,787,000	1,921,113	865,887	
旅費	56,000		56,000	79,444	△ 23,444	
消耗品費	67,000		67,000	232,819	△ 165,819	
会議諸費			0	0	0	
印刷製本費	30,000		30,000	63,329	△ 33,329	
通信費	278,000		278,000	279,429	△ 1,429	
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分	0		0	0	0	
その他	0		0	0	0	
備品購入費			0	997,742	△ 997,742	
図書購入費			0	0	0	
施設賠償責任保険			0	4,910	△ 4,910	
職員等研修費	30,000		30,000	15,000	15,000	
振込手数料	20,000		20,000	16,641	3,359	
リース料	731,000		731,000	0	731,000	
手数料	20,000		20,000	1,296	18,704	
地域協力費	30,000		30,000	41,000	△ 11,000	
その他	1,525,000	0	1,525,000	189,503	1,335,497	
事業費	1,121,000	0	1,121,000	6,474,380	△ 5,353,380	
協力医	630,000		630,000	525,000	105,000	
指定管理料充当 事業（包括）	31,000		31,000	58,611	△ 27,611	
指定管理料充当 事業（介護予防）	151,000		151,000	151,000	0	
指定管理料充当 事業（生活支援）	309,000		309,000	5,739,769	△ 5,430,769	
管理費	1,957,000	0	1,957,000	1,514,156	442,844	
建築物・建築設備点検	168,480		168,480	46,346	122,134	
光熱水費	876,000	0	876,000	792,849	83,151	
電気料金			0	198,449	△ 198,449	
ガス料金			0	139,792	△ 139,792	
水道料金			0	454,608	△ 454,608	
清掃費			0		0	
修繕費	126,000		126,000	23,983	102,017	
機械警備費	47,000		47,000	46,484	516	
設備保全費	114,000	0	114,000	272,046	△ 158,046	
空調衛生設備保守			0		0	
消防設備保守			0		0	
電気設備保守			0		0	
害虫駆除清掃保守			0		0	
駐車場設備保全費	114,000		114,000	120,751	△ 6,751	
その他保全費			0	151,295	△ 151,295	
共益費	357,000		357,000	356,431	569	管理費 修繕積立金
その他	268,520		268,520		268,520	
公租公課	0	0	0	0	0	
事業所税			0		0	
消費税	0		0		0	
印紙税			0		0	
その他（ ）			0		0	
事務経費（計算根拠を説明欄に記載）	0	0	0	0	0	
本部分			0		0	
当該施設分			0		0	
二一ズ対応費			0		0	
支出合計	35,211,000	0	35,211,000	37,513,000	△ 2,302,000	
差引	0	0	0	△ 2,256,700	2,256,700	

自主事業費収入	0		0	45,300	△ 45,300	自主事業への参加料等
自主事業費支出	0		0	58,611	△ 58,611	自主事業経費
自主事業収支	0		0	△ 13,311	13,311	

管理許可・目的外使用許可収入			0		0	駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出			0		0	使用料（横浜市への支払等）
管理許可・目的外使用許可収支	0	0	0	0	0	

★指定管理業務・委託業務として実施している介護保険事業のみ、対象です。

平成30年度 地域ケアプラザ収支予算書及び報告書<介護保険事業分>

施設名:横浜市港南台地域ケアプラザ

平成30年4月1日～平成31年3月31日

(単位:千円)

	科目	介護予防支援			居宅介護支援			通所介護			予防通所介護・第1号通所介護		
		予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引
収入	介護保険収入			0	19190	18714	476	48780	45372	3408			0
	その他	15500	17142	-1642	280	1015	-735	7070	3599	3471	0	0	0
	介護予防ケアマネジメント費	15500	17142	-1642			0			0			0
	事業・負担金収入			0			0			0			0
	認定調査			0	280	306	-26			0			0
	利用者負担軽減額			0			0	7000	3558	3442			0
	研修受入			0			0	70	21	49			0
	その他			0		709	-709		20	-20			0
	収入合計(A)	15500	17142	-1642	19470	19729	-259	55850	48971	6879	0	0	0
支出	人件費	3100	0	3100	16850	23614	-6764	40450	37994	2456			0
	事務費			0	970	1594	-624	5600	6692	-1092			0
	事業費			0	1650	1077	573	9800	8919	881			0
	管理費			0		0	0			0			0
	その他	12400	13403	-1003	0	88	-88	0	1264	-1264	0	0	0
	利用者負担軽減額			0			0			0			0
	消費税			0			0			0			0
	介護予防プラン委託料	12400	13403	-1003			0			0			0
				0			0			0			0
	支部費			0		88	-88		389	-389			0
その他			0		0	0		709	-709			0	
支出合計(B)	15500	13403	2097	19470	26373	-6903	55850	54869	981	0	0	0	
収支(A)-(B)	0	3739	-3739	0	-6644	6644	0	-5898	5898	0	0	0	

平成30年度 自主事業収支報告書

横浜市港南台地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者	自主事業決算額							
	②参加人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
みち草	高齢者	37155	地活	4455	32700			37155	
	354人		包括						
	100円		生活						
うたカフェ	地域の方	89513	地活	8513	81000		71276	18237	
	306人		包括						
	300円		生活						
すずめ学級	1歳児と保護者	124330	地活	85930	38400		114933	9397	
	359人		包括						
	1600円		生活						
タッチケア	3～12ヶ月児と保護者	9132	地活	5832	3300		9132		
	26人		包括						
	300円		生活						
アロマ講座	0～未就園児の保護者	20246	地活	8346	11900		20046	200	
	17人		包括						
	700円		生活						
おもしろ工作教室	小学4～6年生	3341	地活	1641	1700		3341		
	28人		包括						
	100円		生活						
ゆらりんころりん	0～1歳児	26728	地活	18328	8400		26728		
	67人		包括						
	300円		生活						
ケアプラフェスタ	地域の方	10882	地活	10882				10882	
	500人		包括						
			生活						
歯のほのぼの相談室	地域の方	7124	地活	7124				7124	
	83人		包括						
			生活						
なつっこ	ボランティアの方	28000	地活		8000	20000		28000	
	8人		包括						
	1000円		生活						
ボランティア交流会	ボランティアの方	2050	地活	2050				2050	
	24人		包括						
			生活						
ぴんぴん	未就学児と保護者	108	地活	108				108	
	277人		包括						
			生活						

平成30年度 自主事業収支報告書

横浜市港南台地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者	自主事業決算額							
	②参加人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
ほっとカフェ	地域の方	35266	地活	22100			35266		
	328人		包括						13166
	100円		生活						
認知症 家族のつどい	認知症のご家族	16720	地活			11137	5583		
	74人		包括						16720
			生活						
おひとりさまの会	高齢者	3341	地活			3341			
	214人		包括						3341
			生活						
ひまわりホルダー	65歳以上の方	0	地活	23200					
	78人		包括						
	300円		生活						
ケアマネと民生の懇談会	ケアマネジャー	3284	地活				3284		
			包括						3284
			生活						

平成30年度 自主事業報告書

横浜市港南台地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
みち草	<p><目的> 地域の高齢者に外出の機会を作り、閉じこもり防止、友達作り、日常生活動作の維持を目指します。</p> <p><内容> 特に目的がなくても気軽に立ち寄り、集まった人同士でお話をしたり、お茶を飲んだり、レクレーションなど、好きなことをして過ごします。</p>	<p>毎月第1火曜日 (8月を除く)</p> <p>12回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
音楽のひろば	<p><目的> 音楽を通じて地域の高齢者の外出の機会を作り、孤独防止、友達づくり、日常生活動作の維持を目的としています。</p> <p><内容> 音楽療法に有効な楽器(トーンチャイム、打楽器など)と手法を用い、誰もが楽しく気軽に参加できる地域の交流の場です。</p>	<p>毎月第3火曜日 (8月を除く)</p> <p>11回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ぺんぺん草の会	<p><目的> 家族が自由な時間を持てることで、高齢者と家族が地域内で心安らかに暮らすことができることが目標です。</p> <p><内容> 認知症及び虚弱高齢者を対象に、デイサービス(送迎・食事・レクリエーション)を行います。</p>	<p>毎月第1・2・3 木曜日</p> <p>39回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
霜月の会	<p><目的> 高齢者が健康で安心して暮らすことのできる町を目指しました。高齢者の安否確認を行います。</p> <p><内容> 一人暮らし、虚弱高齢者を対象に、毎月一回配食サービスを行います。</p>	<p>毎月1回不定期</p> <p>12回</p>

平成30年度 自主事業報告書

横浜市港南台地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
青年学級 ないと・くるーず	<p><目的> 知的障がい者の余暇支援事業です。 ①様々な活動(余暇活動)を通じて生活の幅を広げます。 ②社会参加の促進を図ります。 ③広域の友達作り(他施設、地域住民等)が目的です。</p> <p><内容> 障がいのあるなしに関わらず、お互いができる所を助けあい、楽しいひと時を過ごします。集まった仲間と夕ごはんを一緒に食べることも楽しみのひとつです。</p>	<p>毎月第3金曜日 (8月を除く)</p> <p>1 1回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ぴよんぴよん	<p><目的> 地域で活動できる場所・サークルなどの情報提供も行い、安心して子育てができる基盤作りをしていきます。 ①子育てをする親の交流の場とし、親のネットワーク作りの支援をします。 ②子育てに関する相談事業を展開し、親の精神的な支援をします。</p> <p><内容> 未就学児とその親が集まるサロンを行います。</p>	<p>毎月第2水曜日</p> <p>1 1回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
1歳児親子学級 「すずめ」	<p><目的> あそび隊の協力により遊びや講師を交えて親と子の関わり方を学習し、地域で活動できる場所・サークルなどの情報提供も行い、安心して楽しく子育てができる基盤作りをしていきます。 ①子育てをする親の交流の場、親のネットワーク作り支援 ②子育てに関する相談事業を展開し、親の精神的な支援</p> <p><内容> 簡単な遊びや、講師の講義など毎回異なる内容で全8回実施します。</p>	<p>5月15日～ 7月10日</p> <p>8回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
子育てまち育て 塾「ひろば」	<p><目的> 地域で活動できる場所・サークルなどの情報提供も行い、安心して子育てができる基盤作りをしていきます。 ①子育てをする親の交流の場とし、親のネットワーク作りの支援をします。 ②子育てに関する相談事業を展開し、親の精神的な支援をします。</p> <p><内容> 未就学児とその親が集まるサロンを行います。</p>	<p>第4木曜日 (8月は除く)</p> <p>1 8回</p>

平成30年度 自主事業報告書

横浜市港南台地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
遊びにおいて よ！七夕まつり	<p><目的> ①地域親子の育児支援。 ②地域の子どもたちと保育園児の交流。</p> <p><内容> 港南台中央公園にて、行政・地域・保育園が一緒になり、地域の親子・園児とともに七夕祭りを行います。</p>	7月4日 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
支えあいネット ワーク	<p><目的> 自分たちが住んでいる地域を住みやすい、助け合いの街にすることが目的です。</p> <p><内容> 地域の保健・福祉活動との一体的なサービスの提供、地域の共通した認識によって協働して行動できるよう、地域の福祉保健の関係者（医師、薬剤師、介護支援専門員、民生委員、友愛活動推進員、保健活動推進員、ボランティア団体、区役所、区社協、ケアプラザ等）、地域住民が話し合いに参加します。。</p>	奇数月第4火曜日 6回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
南部病院 健康教室	<p><目的> 地域住民に病気についての理解を深めてもらい、日常の健康維持・管理に役立ててもらいます。</p> <p><内容> 南部病院の各科の医師に講師をお願いし、毎月異なる科の講義を聴くことができました。病気の治療法から病気と上手につきあう方法など様々な内容を聴くことができます。</p>	毎月第1土曜日 (1月と8月を除く) 10回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
歯のほのぼの相談室	<p><目的> 口腔内において疾患が発病する前の予防レベル段階を対象とした歯科保健指導を地域住民に普及する場を目指しました。 ①地域保健事業の一貫として、口腔内疾患予防の普及を目指します。 ②各年齢層における歯科保健指導活動によって、「一生を通じて自分の歯で食べることができる」健康で明るい生活を営むことを目指します。</p> <p><内容> 個別相談を行います。歯のブラッシング指導もあります。</p>	毎月第1, 2, 4月曜日 33回

平成30年度 自主事業報告書

横浜市港南台地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
タッチケア講習会	<p><目的> 親子の触れ合い(タッチケア)を通して親子の絆を深めます。</p> <p><内容> タッチケアを通して日頃からの親子の触れ合いの機会を増やし、親子で心身ともに落ち着く方法を学びます。</p>	4月10日 10月16日 2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
港南台防災を考える会	<p><目的> 地域住民が自分たちの地域の事を知ることで地域で災害に備え、日頃から住民同士で助け合える地域にすることを目的にしました。</p> <p><内容> 南部病院災害対策担当、港南消防署より防災アドバイザーを迎え、講話とグループワークを地域住民と施設職員が一緒に話し合いを行います。</p>	奇数月第2木曜日 6回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
次世代につなぐ自然講座	<p><目的> 地域の自然を知ること、地域への愛着を高めることを目的とします。</p> <p><内容> 瀬上沢の歴史をたどり、遺跡などを紹介しながら未来へ引き継がれるべき魅力を考えていく講座「ホタルのふるさと港南台」を開催します。</p>	7月31日 1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
うたカフェ	<p><目的> 参加者全員で大きな声を出して歌うことにより健康増進を図ることを目的とします。</p> <p><内容> 珈琲を飲みながら、ギターやピアノの生演奏のもと、昔懐かしい歌謡曲や唱歌などをみんなで歌います。</p>	5月19日 7月21日 10月20日 1月19日 4回

平成30年度 自主事業報告書

横浜市港南台地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
おもしろ工作教室	<p><目的> 地域で暮らす未就学児、小学生に気軽に来所できる施設の環境づくりに努めます。</p> <p><内容> 夏休み特別企画として工作教室を開催します。</p>	<p>8月4日</p> <p>1回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボランティア交流会	<p><目的> ボランティア活動についての情報交換をし、意見交換などを通してボランティア同士の親睦を深めることで活動の幅(裾野)を広げます。</p> <p><内容> 日頃のボランティア活動についての感謝を伝え、ボランティア活動についての情報提供を行い、意見交換を行うことでボランティア同士の親睦を深めるとともにボランティアからの意見や要望の収集を行います。</p>	<p>3月26日</p> <p>1回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ゆらりんころりん	<p><目的> 地域の子育て親子の交流を目的に支援団体「あそび・隊！」の協力のもと開催します</p> <p><内容> 0歳から1歳児とその保護者を対象に親子あそび、パラバルーンあそび、読みあそび等を行います。</p>	<p>9月11日</p> <p>3月5日</p> <p>2回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
サンタこども食堂	<p><目的> 子ども達に美味しい食事と楽しい時間を提供して、地域のつながりを深めることを目的とします。</p> <p><内容> 子どもたちに食事を提供、楽しく食事をしながら地域の居場所や仲間づくりを目指します。</p>	<p>毎月第一金曜日</p> <p>10回</p>

平成30年度 自主事業報告書

横浜市港南台地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
3多(多国籍・多言語・多文化)クロス・ステーション	<p><目的> 地域で暮らす外国籍の子育て支援の実態を把握し多文化交流の機会場の場づくり、支援が必要な方に必要な支援がつながることを目的とします。</p> <p><内容> 文化交流や相談窓口の設置に向けて地域で暮らす外国籍の方と一緒に話し合いをします。また、外国にゆかりのある子どもの学習支援に取り組みます</p>	<p>毎月第1,3日曜日</p> <p>23回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ケアプラフェスタ	<p><目的> ケアプラザの役割と機能を広く周知するために関係機関、各種団体と協働してイベントを開催します。</p> <p><内容> 施設のPRと高齢者支援、障害者支援、子育て支援団体等による地域活動団体を紹介します。</p>	<p>10月17日</p> <p>1回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
港南台子育て連絡会	<p><目的> 港南台地区を中心に日野地区、日野南地区で活動する子育てにかかわる団体・個人が協力・連携しあい情報交換と交流を通じて子育て環境の向上を目指します。</p> <p><内容> 定例会を通じて団体間の情報交換をすると共に「フォーラム」「運動会ごっこよーいどん!」「やきいも会」「支援者研修」「オレンジ会議」を開催</p>	<p>毎月第一金曜日</p> <p>12回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
よこはまシニアボランティア登録研修会	<p><目的> 横浜市が実施する「よこはまシニアボランティアポイント事業」の登録研修会を開催し、ボランティア活動を推進します。</p> <p><内容> よこはまシニアボランティアポイントは、65歳以上の横浜市民が受講し登録するとポイントカードが発行され、受入施設でボランティア活動を行うことでポイントがたまり、換金や寄付ができるシステムです。登録のための研修会を行います。</p>	<p>7月</p> <p>1回</p>

平成30年度 自主事業報告書

横浜市港南台地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
Ocean (オーシャン)	<p><目的> 放課後の居場所として小学校は、「はまっこ」等がありますが、中学生になると、部活動や塾などが居場所となることが多く、どこか行く場所はないかといった相談が何件も寄せられました。そこで</p> <p>①障がいのある中学生・高校生のための放課後の居場所作り ②一人で過ごすことのできる余暇スキルの獲得 ③高校生は職業体験の場の提供を行います。</p> <p><内容> 障害者自立支援法の余暇支援を利用し、介助ヘルパーを確保することで、子ども達の安全を確保し、子ども達の放課後の居場所作りを行います。</p>	<p>毎週水曜日 (8月を除く)</p> <p>47回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ポコ・ア・ポコ	<p><目的> 音楽を使ったポーターゲイ教育を健常児と交流をしながら行い、障がい児の早期教育の一貫を担うとともに、地域の社会参加のきっかけ作りを目指します。</p> <p><内容> ヤマハ音楽教室 システム講師 野島先生による音楽を使ったリズム運動、ミュージカル指導です。テーマに沿って作品を作りながら障がい児と健常児の交流を楽しみます。</p>	<p>毎月第2・4金曜日</p> <p>24回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
発達相談 Kama-po	<p><目的> 乳幼児期の発達に遅れや偏りのみられる障がい児とその親からの相談を受け、ポーターゲイプログラムによる個別指導等を行います。</p> <p><内容> 障がい児を持つ親の不安や悩みなどの相談を通じて、地域の中で孤立しないようにするとともに、ポーターゲイプログラムの個別指導を行います。</p>	<p>毎月第2土曜日 第2水曜日</p> <p>23回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ほっとセミナー	<p><目的> 地域住民に病気についての理解を深めてもらい、日常の健康維持・管理に役立ててもらいます。</p> <p><内容> 協力医篠田先生と港南台内科クリニックのスタッフを講師とし、医療、栄養、運動、日常生活など多方面から自宅で健康に過ごすための秘訣や疾病予防について分かりやすく解説してもらいます。</p>	<p>毎月第4火曜日</p> <p>11回</p>

平成30年度 自主事業報告書

横浜市港南台地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
介護者のつどい	<p><目的> 介護者同士が集うことで不安や孤立感を解消し、介護環境の改善や虐待の防止を図ります。</p> <p><内容> 介護をしている方が集まり施設見学や情報提供、情報交換等を行います。</p>	<p>偶数月第二金曜日</p> <p>6回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
おひとりさまの会	<p><目的> 独居高齢者の孤独死・孤立死を防ぎ、最後まで自立した生活を送るための学びや啓発の会を開催します。</p> <p><内容> 各種制度や資源を学ぶことで、絆やつながりを持てるようにします。</p>	<p>奇数月第三水曜日</p> <p>6回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
認知症 家族のつどい	<p><目的> 認知症の方を介護する家族の情報交換や思いの共有により、孤独感の解消とストレスを軽減する事で、よりより介護や虐待防止を目的としています。</p> <p><内容> 認知症の方やその家族が集まり、情報提供や情報交換、アドバイザーからの助言等をいただきます。</p>	<p>奇数月第三木曜日</p> <p>6回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
認知症サポーター養成講座	<p><目的> 認知症になっても年をとっても安心して暮らせる街をつくるため、サポーター（応援者）を養成します。</p> <p><内容> 認知症を正しく理解し、認知症の方と家族を温かく見守り、自分で出来る範囲で支援して下さる方への認知症講座を開催します。</p>	<p>不定期</p> <p>4回</p>

平成30年度 自主事業報告書

横浜市港南台地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
元気いちおし！ めじろおし	<p><目的> 元気なうちから足腰を鍛えて筋力低下を予防します。</p> <p><内容> 足腰に負担なく行える体操やウォーキング。また、食事や口腔の講座を行います。</p>	<p>10月2日～ 11月6日～</p> <p>8回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
出張相談会	<p><目的> 地域の相談窓口である地域包括支援センターの周知と、気軽に相談できる関係づくりに努めます。</p> <p><内容> 介護保険の代行申請の他、介護や健康などさまざまな相談への対処。地域の方との交流を図ります。</p>	<p>不定期</p> <p>4回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
おーい！らくかい	<p><目的> 脳と身体を同時に使うことで認知症予防と介護予防を図りました。男性限定とすることで、男性が参加しやすい環境を作ります。</p> <p><内容> 歴史散策を兼ねたウォーキングや、調理など、認知症予防につながる脳のトレーニングを実施します。</p>	<p>毎月1回</p> <p>12回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
J A出張相談	<p><目的> JAに来所された方々に健康相談を通じ、予防の必要性や健康の維持が図れるように個別相談を行います。</p> <p><内容> JA横浜港南台に来所された方々を対象に健康などに関する講座を行い、予防の必要性や早期受診につなげ健康の維持を図ります。</p>	<p>偶数月15日</p> <p>6回</p>

平成30年度 自主事業報告書

横浜市港南台地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ボランティア育成講座	<p><目的> 高齢者が、認知症になっても地域の集まりに参加できるように、認知症への理解を深めていくことを目的としています。</p> <p><内容> 3Aの優しい考え方や認知症への理解を深め普及活動を行います。</p>	<p>5月8日～29日</p> <p>3回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ほっとカフェ港南台	<p><目的> 認知症の人及びその家族を支える地域づくりを推進するため、認知症の人及びその家族、支援者、地域住民、医療・福祉専門職等が集う場を提供し、認知症の人を支える家族の介護負担の軽減を図るとともに、認知症に対する正しい理解及び適切な対応についての普及啓発を行う。</p> <p><内容> 港南台にお住まいの認知症の方やその家族・支援者、認知症に関心のある地域住民、医療・福祉専門職を対象に、①認知症・介護に関する相談及び支援②認知症に対する正しい知識を促進するための普及活動③認知症カフェの普及等のための周知活動を行います。</p>	<p>毎月第2火曜日</p> <p>12回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
さわやかストレッチクラブ	<p><目的> 地域の中高齢者の方を対象に介護予防を目的とした体操教室。</p> <p><内容> ストレッチを中心にケガの予防や健康維持を図ります。</p>	<p>毎月第1,3水曜日 2部制</p> <p>48回</p>

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ふれあい健康体操	<p><目的> 地域高齢者の健康維持をめざします。</p> <p><内容> 地域の元気高齢者や60代の方を対象とした体操教室です。</p>	<p>毎月第2,4水曜日</p> <p>18回</p>